

科目名	財務会計Ⅰ	履修学年	第3学年		
		履修形態	選択		
		履修単位	4単位		
使用教科書 (出版社)	新財務会計Ⅰ(実教出版)				
使用教材 (出版社)	最新段階式簿記検定模擬問題集全商2級・1級会計(実教出版)				
学習の目標					
財務諸表の作成に関する知識や技術を習得させ、財務会計の意義や制度について理解させるとともに、財務諸表から得られる会計情報を、ビジネスの諸活動に活用できる能力と態度を育てる。					
教科担当者から					
・授業では教科書・問題集・ファイル・電卓・赤ボールペン・定規を使用します。 ・頻繁に問題演習を行います。積極的に取り組むようにしてください。 ・6月に全国商業高等学校協会主催簿記検定2級、1月に全国商業高等学校協会主催簿記検定会計1級を受験します。 ・学校外における学修の単位認定が行われています。全国商業高等学校協会主催簿記検定2級合格で簿記2単位、全国商業高等学校協会主催簿記検定会計1級合格で財務会計2単位が認定されます。					
評価の観点・方法・割合					
観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
規 準	財務会計に関心を持ち、その知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組むとともに、ビジネスの諸活動を計数的に把握する実践的な態度を身につけている。	いろいろな処理法や記帳法、財務諸表の作成方法について、なぜ、そのように行うのかなど自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身につけている。また、その成果を会計情報の提供という形で適切に表現することができる。	財務諸表の作成に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、ビジネスの諸活動を計数的に把握し、的確に処理することができる。	財務諸表の作成に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、財務会計の意義や制度について理解している。	
方 法	※ ◎は観点の中でより重視するところです。				
学習の状況 の観察	◎				
課題の 取り組み	○	○	◎		
提出物	○	◎	○		
確認テスト			○	◎	
定期考査		○	○	◎	
割 合	15%	15%	20%	50%	
評価の基準 ※ 満点を100点としたとき					
5	4	3	2	1	
85点程度以上	84点～70点程度	69点～49点程度	48点～31点程度	30点程度未満	

学習内容									
学期	月	単元名／学習内容	学習のねらい	評価の観点				時	
				関	思	技	知		
前期	4	第1編 財務会計の基礎							6
		第1章 企業と会計	○ 会計法規の必要性を理解し、その種類と内容について、概略を理解させる。	○			○		
	5	第2章 企業会計制度と会計法規 〈言語活動〉分析・レポート・討論	○ 企業会計原則および企業会計基準の役割と内容を明らかにし、一般原則の内容について理解させる。	○	○		○		
		第2編 貸借対照表							2
		第3章 貸借対照表のあらまし	○ これから学ぶ貸借対照表の役割や区分表示、様式など、その概略について理解させる。	○			○		
		第4章 資産の意味・分類・評価	○ 資産の意味・分類、評価の基準を理解させる。		○		○		
		第5章 流動資産 (PART1) 当座資産	○ 現金預金・受取手形・売掛金・有価証券の評価と記帳方法について理解させる。		○		○		
		第6章 流動資産 (PART2) 棚卸資産・ その他の流動資産	○ 棚卸資産の取得原価と費用配分の原則について理解させる。 ○ 商品評価損・棚卸減耗費の意味とその処理法および記帳方法を習得させる。				○	○	
		第7章 固定資産 (PART1) 有形固定資産	○ 資金的支出と収益的支出の意味を理解させる。 ○ 固定資産除却と買い換えの記帳方法を習得させる。				○	○	
		第8章 固定資産 (PART2) 無形固定資産	○ 無形固定資産の取得原価に触れ、特にのれんに関する計算と記帳方法を習得させる。				○	○	
		第9章 固定資産 (PART3) 投資その他の資産	○ 子会社株式・関連会社株式の期末評価について理解させる。				○	○	
	6	前期中間考査							
		第10章 負債の意味と分類	○ 負債の意味と分類を明らかにし、分類基準を理解させる。		○		○		2
		第11章 流動負債	○ 引当金の意味を明らかにし、役員賞与引当金の記帳について理解させる。		○		○		
		第12章 固定負債	○ 社債の発行・利払い・期末評価・償還の記帳方法を理解させる。 ○ 長期借入金・退職給付引当金の記帳を習得させる。				○	○	
		第13章 純資産の意味と分類	○ 株主資本とそれ以外の区分の概要を理解させる。		○		○		
		第14章 資本金	○ 株式会社の資本金について理解させ、資本金の増加・減少の処理方法を習得させる。				○	○	
		第15章 資本剰余金	○ 資本準備金とその他資本剰余金に関する処理方法を習得させる。 ○ 会社の合併の意味と記帳法を習得させる。				○	○	
		第16章 利益剰余金	○ 利益準備金、任意積立金、繰越利益剰余金に関する基本的な記帳法を理解させる。 ○ 剰余金の配当の意味と記帳法について理解させる。		○		○		
		第17章 自己株式	○ 自己株式の取得・処分・消却の意味を明らかにし、それぞれの記帳法を習得させる。				○	○	
		第18章 貸借対照表の作成	○ 貸借対照表の作成について、会社計算規則による場合を中心に習得させる。				○	○	1
		前期期末考査							
		第3編 損益計算書							3
		第19章 損益計算書のあらまし	○ 損益計算書の役割・区分・様式など、その概略を明らかにする。	○			○		
		第20章 損益計算の意味と基準	○ 損益計算の意味を明らかにし、収益・費用の認識および測定基準、さらに、費用収益対応の原則について理解させる。		○		○		
		第21章 売上高	○ 売上高を計上する基準について理解させ、記帳や計算などを習得させる。				○	○	
		第22章 売上原価、販売費及び一般管理費	○ 売上原価の意味と販売費及び一般管理費の種類について整理する。		○		○		
		第23章 営業外収益・営業外費用	○ 営業外収益・営業外費用の意味・種類を明らかにする。 ○ 経常利益・経常損失の意味を明らかにする。	○			○		
		第24章 特別利益・特別損失	○ 特別利益・特別損失の意味・種類を理解させる。 ○ 損益計算書の税引前当期純利益から下の表示について理解させる。		○		○		
		第25章 損益計算書の作成	○ 損益計算書の作成について、会社計算規則による場合を中心に習熟させる。				○	○	
		第26章 その他の財務諸表	○ 株主資本等変動計算書の意味とその作成方法を理解させる。		○		○		
		後期中間考査							
		第4編 財務諸表の活用							8
		第27章 財務諸表のディスクロージャー	○ 企業と利害関係者およびディスクロージャーについて理解させる。		○		○		
		第28章 財務諸表分析	○ 財務諸表分析の意味・方法を明らかにする。 ○ 関係比率法・構成比率法・趨勢法・実数法による分析の種類を明らかにし、それぞれの計算方法について理解させる。	○			○		
		第5編 連結財務諸表							1
		第29章 連結財務諸表のあらまし	○ 親会社と子会社の意味、さらに連結財務諸表の重要性を理解させる。		○		○		
		第30章 連結財務諸表の作成 PART1	○ 連結貸借対照表の作成手続きを理解させる。 ○ 子会社の資産・負債の時価評価による評価替えのための連結仕訳を理解させる。 ○ 投資と資本の相殺消去の手続きについて、持株比率が100%の場合と100%未満の場合に分けて理解させる。 ○ 連結精算表の作成手順について理解させる。		○		○		
		第31章 連結財務諸表の作成 PART2	○ 支配獲得日から1年経過後における連結貸借対照表作成について、その手続きの概略を理解させる。 ○ 当期分の連結仕訳として、のれんの償却、非支配株主に帰属する当期純利益の計上、親会社と子会社相互間の債権・債務の相殺消去、親会社と子会社相互間の仕入と売上 の相殺消去、未実現利益の消去、子会社の配当金の修正について理解させる。 ○ 連結貸借対照表と連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書のひな形を確認し、連結精算表から連結財務諸表を作成させる。				○	○	
		学年末考査							
									12



11

5

